たけうまファンド

2022年12月31日基準

運用実績

1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
-8.4%	--10.2%	5.7%	-3.9%	-3.9%	1342.8%

※ 証券口座現在の資産残高基準。投資信託、iDeCo、仮想通貨、FX（外貨証拠金取引）は含まず。
※ 過去の実績データがない期間においては数字を未記載としています。

ポートフォリオ構成

実質株式保有比率		89.4%
	国内株式	67.4%
	海外株式	22.0%
現金（円・ドル）		10.6%

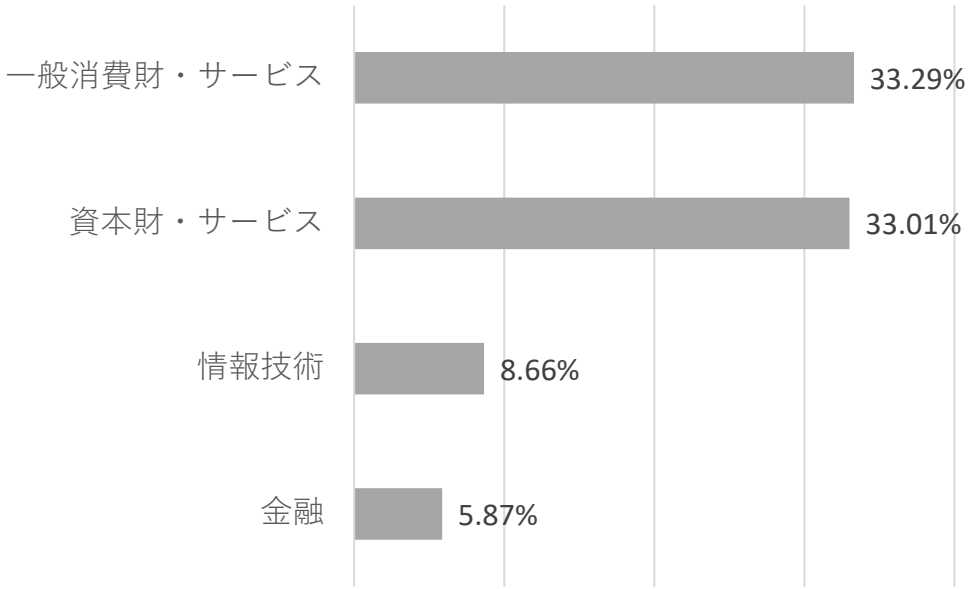
※比率は証券口座の現在の資産残価に対する割合
※信用口座での保有株式については含み損益のみ計上

分配実績

設定来累計分配金　0円

※上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。
※成長ないので分配なし。

業種別組み入れ比率



※ 業種はGICS（世界産業分類基準）によるものです。
※ 優待株は含まず。

たけうまファンド

2022年12月31日基準

たけうまファンドの組み入れ銘柄の状況

組入上位10銘柄

	銘柄名	比率 業種	銘柄紹介
1	ウルトラファブリックスHD（4235）	15.04% 一般消費財	湿式合皮製造販売。従来からのSDGs加速にコロナ後の感染対策、テレワーク需要で成長一段階上へ。
2	シルバーライフ（9262）	10.54% 一般消費財	高齢者向け宅配弁当大手。中計遂行に必要な設備投資を終えて攻めのターン。日本株での成長株枠。
3	シンメンテHD（6086）	9.20% 資本財	飲食店厨房メンテからコロナ禍経て他業種へも拡大。人手不足と感染対策とコスト削減を解決する。
4	ServiceNow, Inc.（NOW）	8.66% 情報技術	ITSM主力のSaaS。業務の自動化、DXは生産性向上に資するため人手不足・高インフレ下でも需要大。
5	日揮（1963）	7.43% 資本財	総合エンジニアリング。世界経済ブロック化に向かう中でエネ安全保障での重複投資の一翼を担う。
5	Tapestry, Inc.（TPR）	7.43% 一般消費財	コーチやケイトスペード擁する婦人アパレル製造販売。経営危機から復活再生中。コロナ明けに期待。
6	オカダアイヨン（6294）	7.27% 資本財	解体用アタッチメント。建替え、電炉、バイオマスなどで市場拡大。今期が設備投資のピーク。
7	オプテックスグループ（6914）	5.97% 資本財	センサー大手。センサー活用の防犯・工場の自動化で人手不足、アフコロ受けた成長に期待。
8	MSCI Inc.（MSCI）	5.87% 金融	指数を開発販売。株価指数の提供だけにとどまらず、ESGやファクター含めマルチアセット市場狙う。
9	ベネフィット・ワン（2412）	3.42% 資本財	福利厚生アウトソーシング。既存客法人への経費精算などHR分野でのアップセルを狙う。

※ 上記は組入銘柄の紹介を目的としてたけうまが作成しており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。

たけうまファンド

2022年12月31日基準

ファンドおよびマーケットへのコメント

2022年が終わってしまいました。12月に入るまではプラスで今年はなんとかプラスで終えられるんだろうなぁと思っていたら下がる下がる下がる。先月のレポートにも書いていますが現在はマーケットの状況を全然見る余裕がないのでどうなってるのか全然わからず、ひたすら下落を一身に受け止めてしまった結果あえなくマイナスでの着地となってしまいました。

思い返すと下落のきっかけは欧州の指標か中銀総裁のタカなコメントだった気がします。欧州初の要因だからすぐ戻るだろうとたかをくくっていたのは覚えています。なのでその時点でなにか動こうとかは考えておらず、むしろナンピンしたりYCC許容幅拡大で銀行株やって損したりマイナスを拡大させるようなことをしてやらかしてしまった。わからないなら殻にこもっていればいいのに。本当にどうしようもありません。

それ以外は特に売買はなし。円高でウルトラファブリックスが振るわない中でも存在感があって助けられていたシルバーライフが決算時の在庫集計ミスでまさかの営業利益大幅訂正で急落して結果的にフルボッコにされての月末でしたね。

年央から先に米国が底打ちして遅れてインフレと緩和修正がやってくる日本はいずれアンダーパフォームするみたいな見解は見聞きしてましたが素直に全部食らってしまうとは。とほほです。

終わったことを後悔しても仕方ありません。重要なのは来年、この先の対応です。

いろんな方々の予想だと年初から春くらいまでは下落、夏にかけて底打ち、秋から年末までは上昇みたいな予想が多いようです。年初からは円高と国内のインフレ進行と来期予想EPSの低下、総裁の交替あたりが重荷で、夏～秋にかけて米金融政策転換と円高とインフレの程度が知れてくれば買えるようになってくるという構図でしょうか。

基本ロングオンリーの主体が多いだろうから後半に巻き返す予想が出てくるのはわかります。でもそれって2Qまで減益でも通期は最高益更新予想出してくるガイダンスくらい信頼できませんよね。私はそう思います。

2022年は信用解禁されてガチャガチャ短期トレードできるようになっていろいろやったものの結局大幅マイナスでいいことがなかったですし、改めて売り持ちが苦手なのはよくわかったので、難しい間は現金多めに確保して冬眠してやりすごすしかなさそう。うまくできるなら今年もううまくやっているはずですから。

有望なテーマはきっと戦争関連の重工業やインバウンド関連なんだと思います。ただし、私の場合自分が握力が発揮できる信じられるテーマでないと勝てないのも昨年の結果が物語っています。昨年まともに利益出たスイングトレードは自信があった穀物系と米エネ株だけです。そういうものがあれば動くだけで、それ以外はやはり動かないほうがいいようです。だいたい年初に掲げた方針は守れてないことが多いですが、ここに書くことでしばしば振り返って守れるようにやっていきます。

※ 今後の見通しと運用方針は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により当該運用方針が変更される場合があります